

## 熊本大学国際化推進センターニュース

## The News Letter of the Center for Globalization, Kumamoto University

### MESSAGE

#### 学長からのメッセージ



熊本大学長  
谷口 功

本学では、現在27ヶ国100機関以上に広がる交流協定大学等との連携を図りながら、さらに門戸を世界に広げ、受入留学生数の拡大と学生の海外派遣、外国人教員や研究者の招聘、国際ネットワークの拡充、海外オフィスの充実などを通して、国際的な視野の中で人材(財)育成を進めています。特に、九州との関わりの深い環黄海

地域を中心に東アジア諸国との国際交流を強化するとともに、先進諸国はもとより新興諸国との連携をも拡大しながら、名実ともに九州を代表する国際化推進における大学拠点としての役割を果たしていきたいと考えています。

国際化推進センターにおいても、留学生の受入れと教育及び生活支援、日本人学生・教職員の海外派遣の促進、海外大学等との交流拡大や情報発信・交換など、教育の国際標準化や研究の国際的卓越性の向上に資する多彩な学際的・国際的な教育研究交流活動を展開しています。本学が「グローバルなアカデミック・ハブ(拠点大学)」として国際的に存在感のある知の拠点となり、その機能を存分に発揮できるように、センターの活動がますます強化され活発になることを期待しています。

#### センター長からのメッセージ



国際化推進センター長  
副学長(国際交流担当)  
古川 憲治

熊本大学は国際的に開かれた大学、「グローバルなアカデミック・ハブ」を目指して、平成21年1月に留学生センターを改組・拡充し、「国際化推進センター」を発足させました。センターには留学生の日本語教育を担う国際語学部門と国際交流支援部門が設けられ、国際公募で選ばれたカッタ教授が国際交流支援部門にこの4月から就任されています。これに加えて、留学生の増加に

対応するため、センターではコーディネーター、国際業務推進員等を採用し、留学生の要望に答える体制を整えてきました。これまで、留学生センター便りを毎年1回発行していましたが、今回、本学の国際化を担う国際化推進センターの体制が整ってきたことから、その活動を広く教職員および学生諸君に知っていただくために、ニュースレターを発刊する運びとなりました。タイムリーな情報を皆様方にお届けするため、年4回の発行を計画しています。国際化に関してセンターで把握できない情報が沢山あるかと思っておりますので、ふるって情報をセンターまでお送り頂ければと思っています。

国際化推進センターの発行するニュースレターが皆様方に本学の国際化の取り組みを理解していただくものになるよう、取材、編集に努力して参りますので、皆様方にも忌憚のないご意見をお寄せいただければと思っています。

### TOPICS

#### 熊本大学サマープログラム2010

今年で4回目となる熊本大学サマープログラム2010が7月26日より2週間の日程で、国際化推進センターにて行われました。今年の参加者は中国・台湾・韓国より26名で、学内での日本語や日本事情の講義を始め、学外でも着物の着付けや和菓子作り体験等、多様な日本文化を体験しました。また、各プログラムには、本学の学生サポーターが参加し、難しい日本語に対してはわかりやすく説明したり、お互いの国の言葉を教え合ったり等、本学の学生にとってもかけがえのない国際交流の場となりました。最終日には、6チームに分か

れて成果発表会を行い、全員無事に2週間のプログラムを修了することができました。サポーターとして参加した学生からも好評だったため、来年度は学内サポーターを積極的に募集する予定です。



## 熊本大学インドネシアITSオフィスを開所



本学協定校であるインドネシア・スラバヤ工科大学(ITS)内に「熊本大学インドネシアITSオフィス」を開所しました。これまでも本学では、国際交流ネットワークの強化の一環として、海外オフィスの設置を進めてきており、既に「中国上海オフィス(平成17年度)」、「韓国KAISTオフィス(平成18年度)」を設置しています。こうした東アジア全域での拠点設置展開の重要性に加え、ここ数年、研究者交流・学生交流が活発化している東南アジアでの国際交流ネットワークの強化の必要性が増しています。そこで、現在熊本大学の受入留学生数が国別で第3位となっているなど、重要交流国の一つであるインドネシアのITS内に新たに海外リエゾンオフィスを設置し、7月20日にITSにおいて開所式を開催しました。

開所式には熊大側から谷口学長、大学院自然科学研究科宇佐川教授、国際戦略ユニット職員、ITS側からはSUPROBO学長以下、多数の関係者が参加しました。また、来賓として在スラバヤ日本国総領事館の高野総領事が招かれました。ITSは、JICA事業(スラバヤ工科大学情報技術高等人材育成計画)、平成20年度にITSとの共催でスラバヤにて開催した「第6回熊本大学フォーラム」、及び学生交流等を通じて本学とのつながりを強化してきた大学です。オフィスにはインドネシア人の現地スタッフ1名を雇用し、本学とITSとの学術研究協力の強化、ITSの学生・教職員への日本と熊本大学に関する情報の提供、インドネシアにおける熊本大学卒業生とその関係者のネットワーキング、インドネシアにおける他の協定校との連絡等の業務にあたります。本オフィスの設置により、本学とインドネシアとのさらなる関係強化が期待されます。



## TOEFL対策セミナーを開催

交流協定校への派遣留学等、本学学生の海外派遣を推進する目的で、平成19年度から「TOEFL講座」を実施していますが、今年度はさらなるスコアアップを目指して、6月28日に米国ETS公認コンサルタントを務められたテンプル大学ジャパンキャンパス教養学部の川手ミヤジエエフスカ恩(めぐみ)先生を招き、TOEFL-iBTについての効果的な学習方法を紹介するTOEFL対策セミナーを開催しました。また、後期TOEFL講座も実施予定です。実施については掲示板等でお知らせします。



## 海外渡航前オリエンテーションを開催

7月21日、今夏に海外渡航する学生を対象に、「留学生危機管理制度(Overseas Student Safety Management Assistance 通称:OSSMA)」を運営する日本エマージェンシーアシスタンスから講師を招き、渡航中の危機管理に関するオリエンテーションを実施しました。協定校への派遣留学や夏休み期間中に実施される海外語学セミナー参加者、国際奨学事業の支援を受けて渡航する学生など約70名を対象に、海外で実際に起こっているトラブルなどをリアルな映像にて紹介し、危機管理に関する意識を高めてもらうとともに、それぞれ渡航先の現地情報の提供などを行いました。なお、渡航前オリエンテーションは年3回程度行う予定です。(第2回:10月または11月、第3回:1月または2月を予定)

## 中国・上海師範大学人文学院院长が谷口学長を表敬訪問

7月22日、本学との大学間交流協定校である中国・上海師範大学人文学院の蘇智良院長が本学谷口学長を訪問されました。本学と上海師範大学は平成20年4月に学術・学生交流協定を締結しており、夏期に行われる短期プログラムの開催など、特に学生交流の面で活発な交流がなされており、今後さらなる交流の発展が期待されます。懇談では、谷口学長と蘇院長は両大学の学術面での交流の発展について意見を交わし、表敬は和やかに終了しました。



## 日本語研修コース修了式および短期留学コース閉講式

8月5日に日本語研修コース修了式および短期留学コースの閉講式が行われました。短期留学コースの留学生50名は、1年間の留学期間を無事に修了できた安堵感と



達成感を感じさせる表情で、谷口学長から修了証書を受け取っていました。閉講式終了後も、1年間苦楽を共にした仲間同士、名残惜しそうに写真を撮ったり、先生方と歓談を行いました。なお、今回、日本語研修コースを修了した2名は10月からそれぞれの専門課程へと進学します。



## テキサス大学サンアントニオ校と大学間学術交流協定を締結



9月2日・3日に、谷口学長と両角工学部長がアメリカのテキサス大学サンアントニオ校を訪問し、在ヒューストン日本国総領事館の大澤総領事、テキサス州日本事務所の白根シニア・アドバイザー、サンアントニオ市

国際事務局のコステロディレクター同席のもと、ロモ学長と大学間学術交流協定の調印を行いました。また調印式に先立ち、グリボウ国際担当副学長や建築学部、東南アジア学院、工学部、教育学部等の関係者とこれからの交流の可能性について意見交換も行いました。この協定により、総合大学としての教育研究分野の

広がりを生かして自然科学、人文社会科学、教育学など多数分野での交流が期待でき、学生間の相互交流の促進にもつながります。また、両大学が所在する熊本市とサンアントニオ市は1987年から姉妹都市提携を結んでいますが、本交流によりさらに行政や経済団体等の都市間交流の活性化も期待できます。



## 平成22年度日本留学フェア・進学説明会参加状況

国際化推進センターでは、例年、海外で実施される日本留学フェア及び国内で実施される進学説明会に参加し、熊本大学の入学案内を行っています。

今年は、6月から12月までに昨年の2倍近い22ヶ所(海外4ヶ国8ヶ所、国内14ヶ所)の会場に、国際化推進センターの兼務教員と国際戦略ユニット職員がペアを組んで参加し、希望の学部や大学院、熊本の生活などについて説明しています。留学生の受入れをこの数年で500名に増大することが目標です。



## お知らせ

### 留学生ウェルカムパーティー

熊本留学生交流推進会議<sup>(※)</sup>の主催で、熊本県内の大学・高専に秋期入学した留学生のウェルカムパーティーを開催します。在学中の留学生、そして日本人学生も大歓迎です。食事をしながら熊本県内の留学生と楽しい時間を過ごしましょう。

日時:平成22年10月15日(金)18:00~20:00

場所:熊本大学 工学部百周年記念館

参加費:新入留学生100円 その他500円(チケット制)

問合せ先:熊本大学 国際戦略ユニット 担当:原山

※熊本留学生交流推進会議:留学生と地域住民との交流を目的に、熊本県下の高等教育機関、行政、経済・産業界、留学生交流団体で構成される。議長は谷口学長、事務局は熊本大学。

### 留学生シンポジウム

熊本留学生交流推進会議<sup>(※)</sup>の主催で、留学生と地域の方との交流を図る目的で留学生シンポジウムを開催します。当日は、留学生による発表や、地域住民との交流イベントとして餅つき大会などを計画しています。

日時:平成22年12月18日(土)13:00~16:00

場所:熊本市国際交流振興事業団(予定)

問合せ先:熊本大学 国際戦略ユニット 担当:原山

### 国際交流会館からのお知らせ

9月末から10月にかけて、国際交流会館にはこの10月に入学する留学生及び研究者が続々と入居しています。9月28・29日に行われた入居オリエンテーションには59名が参加し、ルールやゴミの出し方について説明を受けました。10月末までに新たに入居する留学生・研究者は約110名です。11月には新入居者を含む全入居者約200名を対象とした消防訓練が予定されています。

### 第8回熊本大学フォーラム(ハノイ)

熊本大学は平成22年12月4日・5日にベトナム・ハノイにおいて「第8回熊本大学フォーラム」を開催します。本学はベトナムに6校の交流協定校を持ち、多くの留学生を受入れる等、近年、ベトナムとの関係は急速に深まっています。

今回のフォーラムで、本学「東アジア連携拠点構想」の実現、日越の関係強化に対する貢献と、熊本大学及び熊本地域全体の存在感をアピールすることによって、日越の教育研究交流の充実と留学生受入れの拡大を加速化させることが期待されます。

### 海外渡航安全管理について

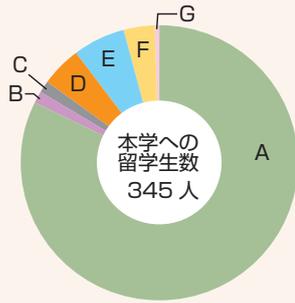
熊本大学では、7月1日から民間危機管理サービス(委託業者:日本エマージェンシーアシスタンス株式会社)「留学生危機管理制度(通称:OSSMA)」を導入し、学生の海外派遣時における危機管理体制の強化を行っています。危機管理に関する海外渡航前オリエンテーションの開催や、留学生危機管理画面「OSSMA LOCATOR」による留学生情報の管理・安否確認、外務省発出の海外安全情報などの危機管理情報提供のほか、緊急対応ヘルプラインなどの個別サポートを受けることができます。海外における多様な活動を一層安全なものにするために、サービスについて学内で広く周知を行うとともに、積極的な加入を勧めています。内容等の詳しい情報については、国際戦略ユニットまでお問い合わせください。

## 国際交流に関するデータ

### 留学生数

(平成22年5月現在)

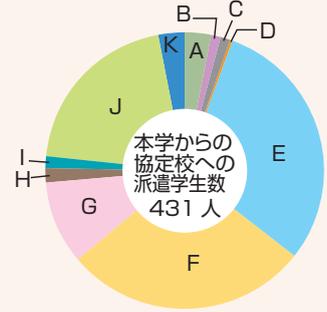
A: アジア	284人
B: 北アメリカ	5人
C: 中南アメリカ	5人
D: ヨーロッパ	16人
E: 中近東	21人
F: アフリカ	13人
G: オセアニア	1人



### 本学からの協定校への派遣学生総数

(昭和52年度～平成21年度)

A: 中国	14人
B: 韓国	4人
C: 台湾	5人
D: ベトナム	1人
E: アメリカ合衆国	130人
F: イギリス	122人
G: ドイツ	42人
H: フランス	7人
I: トルコ	6人
J: オーストラリア	88人
K: ニュージーランド	12人



### 留学生受入数の推移

(平成22年5月現在)

■ 留学生数

### 交流協定校数

(平成22年9月現在)

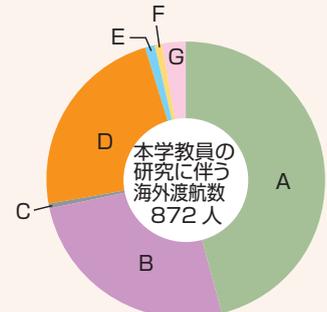
■ 協定校数



### 本学教員の研究に伴う海外渡航数

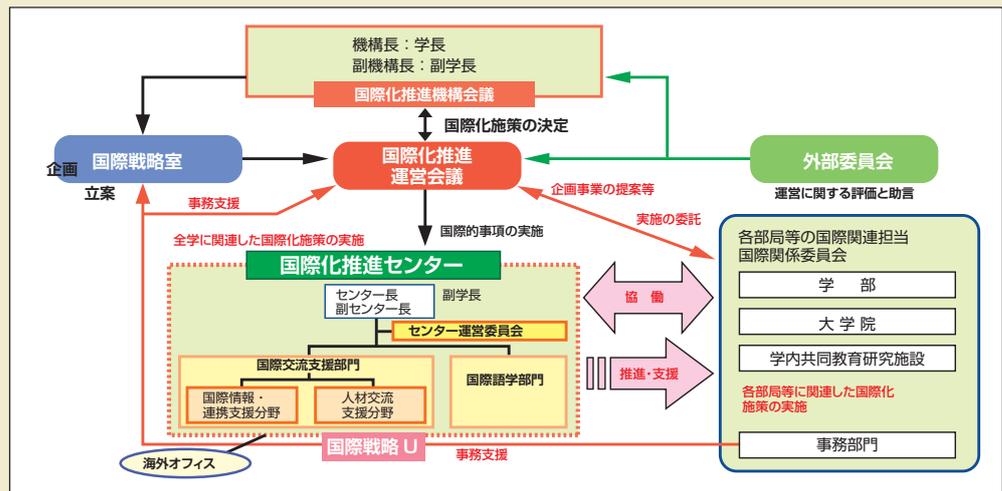
(平成21年度)

A: アジア	402人
B: 北アメリカ	223人
C: 中南アメリカ	7人
D: ヨーロッパ	201人
E: 中近東	8人
F: アフリカ	8人
G: オセアニア	23人



## 国際化推進機構の構成概略図

国際化推進機構は、本学の国際化に関する最重要事項や課題に関する意思決定機関として平成21年1月に発足しました。学長を機構長とし、「戦略的連携」「人材の流動化」「情報発信」「英語共用語化」を国際化推進の重要な戦略として位置づけ、教育・研究両面における国際交流を推進します。



## 国際化推進センターの教員紹介

センター長

副学長(国際交流担当)

教授 古川 憲治

副センター長

教授 鳥居 修一

〈国際交流支援部門教員〉

教授 Venkataramana Katta

〈国際語学部門教員〉

教授 小脇 光男

准教授 梅田 泉

講師 松瀬 成子

講師 マスデン 真理子

講師 今西 利之

(兼務教員)

准教授 濱田 明

教授 伊藤 仁一

教授 伊藤 洋典

教授 木村 弘信

教授 矢野 隆

教授 葉 陵陵

准教授 岸田 光代

教授 宋 文杰

教授 白石 順二

准教授 磯濱 洋一郎

教授 隈元 貞広

教授 下條 冬樹

准教授 金 大弘

